

視 座

学校医は、子どもの命と学びを守る番人である

宮城県医師会副会長

草 刈 千賀志

学校で命を失わないために

学校保健安全法は、児童生徒および教職員の健康の保持増進と、学校教育活動における安全の確保を目的としています。この目的を突き詰めて考えると、最も重要なのは「学校で命を失わせないこと」だと、私は常に考えています。この視点から逆算すると、学校保健のさまざまな取り組みの意義が明確になります。学校活動に伴う重大事故や事件は、新聞報道でもしばしば目にします。例えば、東日本大震災での津波被災、学校への侵入者による暴力、校内火災、学校給食によるアナフィラキシーショック、熱中症、水泳事故、感染症の集団感染、さらにいじめやパワハラに関連した暴力や自殺などです。こうした決して起こしてはならない事態について、原因・誘因・背景を考察し、そこからより軽微な問題へと視野を広げていくことで、学校で児童生徒や教職員の健康と安全を守るために必要な措置が自然と見えてきます。その考察において医師の役割は極めて大きく、ここに学校医が果たすべき役割の本質があると考えます。

子どもの教育を受ける権利を守るために

学校保健には、もう一つ重要な使命があります。それは、子どもたちの教育を受ける権利が損なわれないよう守ることです。日本国憲法第26条第1項には、「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する」と定められています。学校設置者や行政はこの規定に基づき、すべての子どもが適切に教育を受けられているかを確認し、必要に応じて個別に対応しなければなりません。疾患や身体的な理由により通常の学校生活に支障がある場合には、特別な支援が必要です。そのためには、就学する子どもたちの身体的・精神的状況をまず把握する必要がある、その役割は医師が担います。分かりやすい例を挙げると、一般的な授業は「見えていること」「聞こえていること」を前提に行われています。もし就学中の子どもが視力や聴力が低下していれば、その子は教育を受ける権利を十分に保障されていないことになります。そして、見えているか、聞こえているかを

医学的根拠に基づいて確認できるのは医師です。また、身体的な理由で通常教育機関で学ぶことが難しい場合に、どのような支援が必要かを提案することも医師の役割です。ここでは視力と聴力を例に挙げましたが、内部障害、知的障害、運動器の問題など、配慮すべき要素は多岐にわたります。その多くは医師の専門的判断なしには決められないものであり、ここにも学校保健の意義と学校医の存在意義があると考えられます。



深刻化する学校医不足と健康課題の多様化

学校医は地域の医療資源、とりわけ開業医に大きく支えられています。しかし、医師の地域偏在や高齢化により、後継者の確保は年々難しくなっています。幸い宮城県では、会員の先生方の責任感と熱意により、公立小中学校ほぼすべてに内科・眼科・耳鼻科の校医が配置され、それぞれの専門性を生かして役割を果たしています。全国的に充足率の低い眼科校医・耳鼻科校医についても、都市部では一人で4～5校、その他の地域では20校を超えて担当する例があります。こうした状況の中、市町村域を越えた連携や勤務医の先生方の協力により責務が果たされていることは、高く評価されるべき取組です。一方で、将来を見据え、若手医師や医学生に対する学校保健教育をさらに充実させる必要があります。

学校医を取り巻く課題は多岐にわたります。児童生徒のプライバシー意識が高まる中、「健康診断における脱衣」をめぐる戸惑いや対応の難しさが大きな問題となっています。医師側も、所見の見落としへの心理的負担や保護者からの苦情への懸念を抱え、対応に苦慮しています。また、発達障害、精神疾患、不登校、いじめに伴う心身症、スマホ依存など、専門外の領域についても専門的知見を求められる機会が増えています。さらに、自治体間で報酬額に大きな差があり、地方交付税の算定対象であるにもかかわらず、適切に支出されていないケースも指摘されています。加えて、児童生徒だけでなく、過酷な労働環境に置かれた教職員の健康管理も学校医の職務に含まれています。一方、教職員50人以上の学校には労働安全衛生法に基づく産業医の配置が求められており、学校保健安全法との間で基準が重複しています。省庁間で制度の整合性を図ることが必要です。本来、強いストレスにさらされる教職員には、在籍職員数にかかわらずすべての事業所で産業医を配置し、子どもの健康を担う学校医の職務と、教職員の産業保健を担う産業医の職務は、本来明確に整理されるべきです。

学校医は憲法の番人かもしれない

少子高齢化が進む我が国において、子どもたちは何よりも大切な社会の財産です。その命と、教育を受ける権利を守る学校保健、そしてその中心を担う学校医の使命は、今後ますます重要になるでしょう。その使命を果たすためにも、現場が抱える課題を一つ一つ着実に解決していかなければなりません。学校医とは、子どもの命と学びを守る存在であり、言い換えれば、憲法が保障する子どもの権利を現場で支える「番人」なのです。